

高木揚心流柔體術

石水

高木場心流柔術體術

素形士

取敵捕

此の型は空型にて相手方と差向ひに両指先を以てせり

一相手方右足立て右平にて我片胸捕と来る

ニ捕らぬ片胸の下襟を我片平にて持つて右平

手刀で相手取敵を打ち右足立てる同時は右平

平の平を右胸捕る。平の甲に親指を当し四

指い下掌を掴み右身直ぐ并つて右足引右

足大きく引いて空した足は二敵の胸にけり込み

押える

此型は空型 相手方右平にて水月当込みに来る

其手を右平にて右方へおけて平首を持つて右平

相手を襟持つて右足横に出し引いてあを回

けに倒した足は二敵の右腕折りに押し込むた

青眼

下拵

平一文字

空型

肘を(かつかうて体)

変

洞(反)

我(我)

受(受)

よ(捕)

右足は 左足は 右の 左の 以て

腕の形
腕の形
腕の形
腕の形
腕の形
腕の形
腕の形
腕の形
腕の形
腕の形

は行し敵左平にこす又ける 我の相手方の止めに来
右左平首を待つて敵の右側に出る腕を引き
上げ廻して押さへしや

水月

裏型

逆腕

表と同じ立上る時右足水月を蹴込むる
表と同じ左平に敵右平を押しとして敵仰向

腕所

は倒し右足敵右腕を蹴込むる
表と同じ敵左腕の上は右足おねで押さへ腕

面部

折のる

腕反

腕足折
横倒

腕折

襟 締型

本締

立技相手方と対立先づ左平に相手方左襟下を
以て急ぎ右平に相手方右襟上部を急ぎ

親指中に入れた持つ同時に左襟引き右平首に
締めよ 相手方は首を相回り急ぎ左平の心構する

急ぎの急ぐたる点心構する急ぎが首かため
締めよ急ぎも締め方を研究する急ぎ

逆締

立技前と同じく左平に相手方左襟下を持つて
左平親指襟外にして四指を此頭当り押さ

左平引く逆締ながら心構り難し
立技相手方左平に急ぎ左平に急ぎ同時に左平

相手方左腕の急ぎ押し廻し我が左襟上を持つて
左足相手方左足外より蹴けて我が右足より

つおけに倒れる 敵おとむけに倒れる急ぎ

腕締



の右腕平首持った左平はみん下は押え腕部
の方を押え上げる 腕折れを痛みとなる

一摘締

立技相平方と対立右平に二相平方左襟上を
押って一度平元へ引く相平方引かたまじとある
勿心ち其反動で右倒より後ろに担より左平
に二相平方左肩先を掴み後ろに両平共引き
襟締めす 元へ頭を背に付けろし

痛締

立技右平相平方左襟元へ上を親指中にして
捕り左平相平方の右襟上を元へ親指中にして
二捕り両平親指小指節に押し締りめ別
ち一リンの袷の袷

押締

立技前と同じく両平相平方両襟上を捕って
両平親指先は二相平方龍巾を下に押し
締める (龍巾は両肩凹の處也)

逆押締

前と同じく両平母指先は二両平上をフリ締め
にする (リンの袷の袷)

全締

相平方生す前より相平の左肩先一寸持った
引き飛しみ右倒より廻り三角締めほす





鬼内投

く逆掴みしにあげ敵の右足を折
と成る右は敵の右腕付根を掴み右腕
入れし投げしと云ふ事なす
相平方我が両腕を捕り我の右腕に敵の両腕
を掴み母指関節に脚禁みんを押し当り
押しこ引くのと右腕入れ子のと同時腕を引
する

① 我の當り

小捕

相平方左平に我の先腕を捕り我の右平に
逆平段の取く折りにして敵の左腕下
をくいる時左平に敵脚を掴み引倒す
敵は身を倒し倒す左平脚を掴む時時敵腕
相平方左平我の先腕を捕り我の右平相平方の腕
持つ平のひしを掴み其平を肩にかけた廻り
に一度して息を其平を肩にかけ投げ

體之型

腰車

立技相平方左前捕右後腰を掴みいしに腰投けせ
んとす 我の左平相平方後帯を掴み右平敵の面
部に打ち込み我より進んで相平方の前は横身
捨身にして右平は相平方左足を踏むを押し上げる
敵前に足形に倒す

四ツ手

立技互方其に左平肩を掴み右平前帯を掴み
相平方引く三歩我より引か小附入りし最後は
歩た足敵の内股にふせ込んで右足相平方左
足も、に掛ける也投げ

四ツ手崩

立技相平方我が両腕捕りに来る我の敵の二腕帯を
左平に捕り左平に敵の左肩捕り右足進みの
押すと同時に左足敵の股に流すのと左平入敵
た足も、に掛けるのと同時に足投げ

刑頭

相平方後より我が頭をも掴む我の腕を

敵の左平首を掴み腕を落して左足引き後ろ
 向き形となり右平拳にこけんと構へる敵
 後に三歩退子。忽ち右足敵左側直飛しこ
 右平拳敵の面打ちこ横也投げとす
 立技相手方腰投げ入し玉我れ相手方の水
 月以右拳打ちこ直ちに右平にこ相手方左
 肩先を掴み左平敵の後腰帯掴み左
 足相手方前より敵のたへ流す 同時は右
 足相手方左足も、に掛けこ右平肩持こ平
 引く横也へ投げ敵は横仰向けに倒る
 立技相手方両胸押りに来る 我れ敵の両肩
 を左右の手で掴り忽ち敵の左足横に両足
 流しこ玉敵也へ投げの如く仰向けに倒る
 立技相手方も両胸押りに来る 我れ相手方にこ敵
 の左襟持こ右平にこ敵を襟を掴んで左襟

腰流

引き 右平突き逆襟締にしし左足も、の尻に
 右手掛けこ也投げ
 立技相手方両脇を捕り 我れ相手方両脇の中
 南節(星)凹の處に母指入るこ掴み一寸押
 忽ち左足は敵左足も、に掛けこ也投げ
 立技相手方我が両脇を捕る 我れ相手方の右
 肩を掴んで忽ち相手方股の中に左足を流し
 こみ同時は右足は相手方左側に流しこみ
 両肩引く也返し
 立技相手方両脇を捕る 我れ右平相手方右
 肩深く掴んで左平は相手方左腕付根を掴み
 左足敵の右足も、に掛け右足は相手方両
 股内に流しこみ横也流し投げ
 立技相手方両脇を捕る 我れ相手方両平に
 南節肘を捕りこ上方に押しこり引くのと同

雲井返

両手掛

水流

柳雪

越後崩

引き 右平突き逆襟締にしし左足も、の尻に
 右手掛けこ也投げ
 立技相手方両脇を捕り 我れ相手方両脇の中
 南節(星)凹の處に母指入るこ掴み一寸押
 忽ち左足は敵左足も、に掛けこ也投げ
 立技相手方我が両脇を捕る 我れ相手方の右
 肩を掴んで忽ち相手方股の中に左足を流し
 こみ同時は右足は相手方左側に流しこみ
 両肩引く也返し
 立技相手方両脇を捕る 我れ右平相手方右
 肩深く掴んで左平は相手方左腕付根を掴み
 左足敵の右足も、に掛け右足は相手方両
 股内に流しこみ横也流し投げ
 立技相手方両脇を捕る 我れ相手方両平に
 南節肘を捕りこ上方に押しこり引くのと同

鶴

時に我が上頭部にて相平方の敵面に向う
け息う両足相平方両股の向に流し込んば
扱げ

飄隊

立技相平方横より腰扱げに来る我々相平方の
左肩を右平にて掴んで左平は相平方の右前
帯を掴んで両足相平方の左側に流し込んば
扱げ相平方わ我体の上から横扱げに倒れ
る我々付いて相平方の上になり襟しめ
立技相平方我々両胸を捕る我々相平方両肩
を掴んで左足を右足もに掛け扱げにして
ついで一転廻して敵の馬のりとなつて襟しめ
立技相平方両胸を捕る我々両平にて相平方両脚
を掴んで押し息あふ両足敵の右側に流し
込んば横扱げ扱げ ついで馬乗りとなつて襟
しめ

葛搦

立技相平方両胸を捕る我々も両胸を捕り
両足相平方の股の中を流し込み扱げしめ
ついで馬乗りとなつて襟しめ

無刀捕型 式十捕 十子論の系

拳者捕

我々平一文字の構相平方大上扱一平斬りしめ来る
た之体を転じ右足一寸後退く敵の一平右側に流

れる我々左平にて敵右平首を握り右平拳
にて敵左平甲を押し打つ同時に左平二の腕も右

平にて打ち一力は横に飛ぶ息あふ右平にて敵の
右平甲に母指指差を逆捕りしして左足を左平に

引けば敵仰向けに倒れる 我々も一平捕
りし強心

一文字 我々平一文字の構 相平方大上扱一平斬りしめ



柄落

兼またとする一歩、手前には右足敵の前に出し
た足宅して右手にて敵の右目当にむ敵仰向けに
倒れる一歩、息をいって残心

右手前左手珠の襟元は構えたる正眼の構、敵大刀
下に段にふりかぶる、息を吐いては敵の両手肘
を両手は止め押す、右足一歩敵の右足前に進め
息を右手にて敵の刀の小じりを握りに押し出し、
腰入れの段に敵の一刀は、我の手に残り敵仰向
け倒し残り

○正眼の構
向捕

我の正眼の構へ敵大刀大段上斬じむ、左側に一歩
よけ、右手にて敵刀捕る、右手首を掴む、息を
右手にて上かろう刀の小じりを掴み、上に引上げ
のと、
一、右手拳敵の面部に打つ、敵
仰向けに倒れる、倒れぬは敵股が我の刀に切ら
る、
二、也、敵の刀は我の手に残り、残り心



柳捕

手上部に引寄せ、敵の大刀にて敵を足す、いとたり
右手逆は刀を押え、
相手方大刀抜かんとす、息を吐き、右足敵の小手をける
大刀は抜けて、
敵の立直る点に進進、小刀の
つかさ、右手に持ち、左手拳敵の山登を打ち、左手
小刀ぬいて、突きのなり

柳骨

相手方大刀斬じ、
右足一歩後、引いて体を
かかす、敵の大刀右側に流れる、
左手にて敵の右小手
を掴み、右腕骨にて敵の面部打つ、息を吐き、
大刀捕り、
横へ文に切捨る

潮返

おと、同じく体を傳、
いさのと同時に、
右手平刀で
敵の右腕天骨打つ、
敵は刀を落す、
横入りして
大外に、
如く、
右手にて、
人平に、
当り、
突刺しの
なり

城

相手方大刀大段、
珠の襟元、
は、
構え、
は、
手前、
敵の

小手止

両手肘を押し上る敵は歩引く付しりて左足すねにて敵の下段を蹴上げ右平敵の刀のこいりをもつて流し令に上り突き上る敵は己の刀の背で天頭打たせて倒す
相手方大刀斬込や来り右を後たへ南いしかわ敵の大刀右横に流す 左手にて敵右平逆押りをして体を一轉 右手をえしし左足せしして掛りのり

横刀

相手方大刀に手を掛り 左手にて大刀のつかを下に押へる敵は歩引く付しりて右平肘にて水月は当込や左手にて敵の大刀を抜くのと横に斬拂ふのと同時の有り

車投

前と同じく肘いし水月は當り左平敵の左腰に手を掛り横に倒す横車返し 左平は敵の大刀のつかを握りしる左足に刀は我手は有り思ひ一轉廻し

廻捕

我水腰落し左平前に左手た脚に引いて下投の構え 敵一刀大上投斬込や来り 左に体を轉い 右平平刀にて敵の左腕尺骨に打込み同時に左足にて敵左平首を蹴上げり次に右平獨骨押すのと左足大外の如く敵の足押に敵仰向け倒れる一刀をひき残心

後捕

我小平一文字敵一刀突込や来り左に体を輕じ左足にて敵左平蹴上げ思ひ敵の後ろに飛込し西袖ハ葉一両手掌が敵両肩をうつ敵先を来うして倒すは是れ残り心

沈捕

我水腰を落し下投の構へ敵一刀突きまじ胸に切し込ますとす我右側敵の前面に右足進め体をかほし左手にて敵の左平首を以つて上に押し上げるのし今一歩入込して右平敵の股に差込め表掛けにて掛り倒す

柄 碎大 小 捌 刑 正

相平方と対立相平方大小二本差しはは相平方は
右平柄に平を掲げり我れ右平にこそ其柄頭を
押へるのと左平刀にこそ敵の右平久田節と打
つのと右足下指を蹴り上げると同時に也

引 捕

相平方と対立大刀正に抜かんとす我れ西平にこそ敵
の西袖を打ち忽ち相平の大刀を右平にこそめいて突
きの構之のる

入 捕

相平方大刀大上段に構へる 我れ平一文字に構へる
敵斬しまんとする右足敵の前には前進右足生して
右平にこそ水月を当てん相平の小刀引ぬいて其ま
突き入る有

乱 岳

敵大小差しは前に進む 我れ後ろより敵の大刀の小柄
を掴む引く敵の右腕首を右平にこそ掴む 敵は右平
大刀つかは平をかりぬき刀をたじしす 思ふと右

起し敵に斬じむ残心

四ツ手 刀

相平方大刀に平を掲げり我れ右平大刀のつかを
押へ右平小刀のつかを毛つ同時に右足敵の強
經を強ふし付け敵敵を引く忽ち右平小刀
抜いて突入る有

又 結

相平方大刀に平を掛ける 右平小刀のつかに平を
握り大刀のつかを押し敵一歩引く付入りし心
ち小刀抜き横一文字の有

透 捕

相平方大刀大上段切しまんとす此体を用いしか
敵平が横一文字に切じむ後に飛退り忽ち
変化飛じし右平平は敵の水月に當て
るを腹を腕掛けの有

梅吐

調刑工

梅吐指を
以て外れ

敵は右手袖左手は残本
の右手首を右へ押し逃がれんとす 我は体を

車返

敵の右手上に右足敵の右足巻いて俯向りて倒
敵は仰向りて倒る 我は心は縮めしきめ

相手方本逆襟締に乘る 我は敵の左右両
禁定に両手掛りて痛みを入しむると同時に

○天返

巴返し右足敵左足に毛、に蹴りしるる前
相手方命に背負いに出る 我は左手握る

増り

う相手方の左脇帯を元分に握りて相手相
方の前帯を握りて背負いには蹴りて同時に

流捕

山より敵の足元に飛び込みしる 敵は仰向り
倒れるのと前帯握りし着の足元を蹴りしる
相手方左手に我は花袖を捕る 其手首を

山落 靴山 袖車 百懸 石懸 体懸 霜逆 風折

いし握りて左手に敵の腕を握りしるが我はより
倒れし 我は左手 手規とするるに敵の
腕折しる

潜型

極樂落

相平方右手片腕の左手右袖捕へ来る 秋の左手
敵の左手肘の一寸上部の袖を握り右足一歩引く
右手と共に引くこの構に出ると思ふ左足引くのと
同時左手も敵の左手より我の左手に握り
し敵の左手逆押へて少変化して敵左手を握り

地獄捕

前と同じく敵の左手押へ込んで変化して思ふ左足
に敵の左足大外掛けるに仰向けに倒す

玉砕

相平方両手に二両腕捕り本締めに来る 我の左
右の手に二敵の両腕を掴み左手の腕は母指
に二押へる敵は左の腕の二指に左腕は右の
に二指する思ふ左腕へて指

飛鳥捕

相平方拳は二腕の横面に打ち来る 体を落して
右腕に二指り左手に二同時 敵の右手首を

鬼仗

相平方左手先襟を捕る 敵の襟持を左手の
上に左手軽くのせ左手親指に二敵の爪指をさすに
押す 敵は痛みを引かんとす 付入りて

船隻捕

右手に二敵の首を捕りして大外掛り
下より着込めサマに左手に二逆しめ 体をた
にひねりて左足に二引かんとす 敵の左手を強く
引く事は注意

水鳥

右に左手襟を袖下を捕る 左手に二敵の左手に
より着抱えて腕逆締め 左手親指に二敵の
お風を締め 体を転じ左足先を後方に引

来雲

右に左手襟を袖下を捕る 左手に二敵の左手を

右手は右の指を握りし
打ちしりきり

逆に巻抱へる締め（これは一寸破と取らぬし）

手敵右手下より上外に出して巻抱へる

心より右足は敵の股入水腰型にして投げ

X 體落 互に襟衣袖下前通り右手突き右足内股に掛ける

前より指さし同時に變化して右手前の如く敵右手外より巻

前通り全身上へた足入込腰入れて投げに火を引取後に右足は

に空して体落し投げ下ナ 右手は右足に引く

潜捕 互に襟衣袖下前通り

前と同じく最後に右足は後に空する時右手

は敵の右肩担が引落す事には敵は完全な敵

を捕縛へる事となる

潜日投 前と同じく敵の右手外より巻いて投ぐ

に右手敵の右腕脚の裏の裏と担が引く

落して右手は引く事にして投げる

事、 受は左側より引く事

おかしきこと也